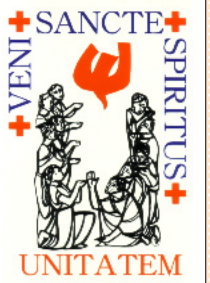


2021年7月18日 (第202号)
発行所 カトリック高松教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉

世界平和のためにできることですか？家に帰って家族を愛してあげてください。

今後の高松教区の宣教司牧

希望の中で「開かれた教会」の姿をみいだそう

使徒ヨハネ 諏訪榮治郎

2021年7月に入り、各小教区のミサが公開ミサとなり、感謝のうちに集っておられることと思えます。つきましては、教区の司祭評議会では、継続審議となっている懸案「今後の高松教区の宣教司牧」を皆さまに分かち合わせていただきたく思います。

高松教区は宣教司牧「地区・ブロック」が6つあり、24の小教区があります。現在当教区で働いておられる(引退を除く)聖職者は計24名です。内訳は教区司祭&助祭9名、ドミニコ会6名、オブレイト会6名、スペイン外国宣教会3名となっております。その24名の聖職者のうち来年(2022年)に80歳以上になられる方は7名となります。今から3年後を考えると、引退される司祭方が見込まれてくることは当然のこととあります。

これからの状況は高松教区だけの問題ではなく、ほとんどの教区に同じ問題が迫ってきています。基本的には自分の小教区だけではなく、私たち一人一人が教区全体の状況を念頭に置くことが求められてきます。そこで考

えたいことは以下のとおりです。
・司祭・助祭と信徒の奉仕職とのさらなる協力宣言
・司祭強化がかなめとなります。(各評議会の重要性)
・地区・ブロックに対する意識の変化(*自分の小教区にしがみつくことなく、地区・ブロックを一つの教区として考えること)によって、信徒同士の協力化・教会行事の活性化・財政の軽減化を

このほかに様々な課題が浮かび上がってきます。不安なことではなく、希望の中で「開かれた教会」の姿をみいだし、多くの人々にとって福音の喜びの場となるように、祈りのうちに歩みたいと思えます。

図る) 教会施設の有効利用(教会施設を信徒専用物と考えず、広く社会のために開放する・みんなの教会)
・そのために生涯養成(司祭も信徒も合同で)が必要になってきます。「養成」が「意識」を変え、そこから本場に必要「組織」が生まれてきます。



7月8日、諏訪司牧様の誕生日に、桜町教会マリア会からお花を贈りました。司教様おめでとうございます!!

今後各地区・ブロックにおいて、3年後を見据えた宣教司牧の在り方を策定していくこととしていきます。皆さまのご協力、ご理解を心からお願ひ申し上げます。次第です。

諏訪司牧から

朗読奉仕者へのアドバイス

ミサの中で聖書朗読をする人の役割は大変重要なものなのです。

「聖書のみことばが教会で朗読される時には、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身のことばのうち現存して、福音を告げられる。したがって神の言葉の朗読は典礼のもっとも重要な要素である」とミサ典礼総則(9)にある通りです。

そこで朗読者の留意すべき点をいくつか考えてみました。皆様の準備に役立てば幸いです。

朗読者の準備

- ・朗読者はその日の「聖書と典礼」を前もって入手し、下読みを繰り返しておきます。
- ・読み方などであいまいな点があれば調べます。
- ・さらに自分で聖書を開いて朗読箇所の前後を読み、内容の理解を深めておきます。

朗読の心得

- ・聖書のみことばを朗読するとは単なる朗読ではなく、神のみことばの宣言

よりよい聖書朗読

よりよい聖書朗読 ・・・もう一段の努力と工夫を

から、独りよがりの読み方をしないように気を付けましょう。

会衆の方々に理解してもらうためには、朗読者が見言葉を理解していることが大切です。

朗読の調子

- ・一息で、一気に読むと、決してしない。(聞いている人には理解できない)
- ・聖書にふさわしい格調のある朗読が望ましい。

技術的なこと

- ・文章の終わり、語尾まではっきりと発音すること。
- ・喉だけで声を出すのではなく、腹から声を出すようにつとめる。(堂々と読む)
- ・マイクの前であっても、

朗読の姿勢

- ・少し足を開き、胸を張って堂々とした姿勢で読みます。(本にかぶさって活字だけを追うようにならないように気を付けましょう)
- ・両手は軽く書見台の端に置く。(台が低いときは聖書を両手で奉持する)

はばたき

先日「愛は魂の奇蹟的行為である」なかにし礼著を図書館の新書の棚で見つけました。生前に書かれたエッセイを編集した本ですが、その中の詩に感涙。僅から歳で体験した戦争という邪悪。他人の死をも振り払い、生死を紙一重の中で生き抜いた幼い頃の壮絶な戦争体験の詩ですが、それは今を生きる私達へのメッセージでもあり平和への希求を謳い上げているのです。この体験はこの方の人生に重く深く関わっていたのです。

平和といえは色んな人間模様を哀愁を帯びた曲に乗せて切々と謳い上げている歌手、さだまさしが浮かんできます。歌詞の中では人の優しさ、人間愛が語られています。静かなる反戦歌でも言うのでしょうか。

今私達は人類の繁栄と幸福の為と言いつつ神の思いとは反対の歯止めの効かない文明社会を突き進んでいます。私もその恩恵を受けている一人です。自国第一主義、環境破壊等々。自然界のバランスを崩さずあらゆる生物との共存や平和を他者との利害関係の中で、どの様に収めていけるのか、今それが早急に求められています。

神は人々にその人に相応しいタレントを下さっています。その大切な恵みをどの様にお返ししていくのか。なかにし礼の詩の最後に「幸せをあなたに」と言いながら風船を手渡す男が出て来ます。どんな人にもそう言いながら手渡すのです。さあ！今から私もそんな風船を周りの方に手渡ししているのか?! 神の御心を実行に移す為に。

地区・プロックの話題

西讃プロック

洗礼のお恵みを受けて70年

坂出教会

マリア・ロザリオ 前川千恵子

1950年(昭和25年)頃、坂出に住んでいました。坂出教会には、ドミニコ会のマカリオ神父様とサンタ・マリア神父様がおられました。当時の聖堂は、カマボコ型でした(進駐軍の払い下げとか?)。私は、ご縁を頂き、マカリオ神父様から公教要理を習っておりました。一番覚えていたのは、天地万物を創造された神様のことを教えて頂いた折、「ここにテーブルがあるでしょう。これは誰が作りましたか?大工さんでしょう」というような例えを色々話して頂いたことです。18歳の私は素直に受け止めておりました。

1951年10月7日、ロザリオのマリア様の祝日に、母と一緒に洗礼のお恵みを受けました。母は、2月22日生まれと云うことで、ルルドのマリア様の洗礼名を頂きました。私は、10月7日ロザリオのマリア様の祝日にちなんで、マリア・ロザリオの洗礼名を頂きました。洗礼の秘跡の執行者は、サンタ・マリア神父様でした。

同時期の出来事として、高松の桜町教会が建設されたことも思い出します。完成した折、シスター曾我部院長様のご紹介で、母は桜町教会で賄いの仕事をすることになりました。桜町教会には、田中英吉神父様(後の司教様)と何人かの神父様がおられました。夏休みには神学生が帰省され賑やかでした。

やがて、スペインのプロゴス宣教会(現在のスペイン外国宣教会)の派遣で、オランダ神父様(管区長)とマンソン神父様がこの四国にいられました。次に、ダビデ神父様、カシミロ神父様、ドウラ神父様もいらっしゃいました。そして、ブルゴス会の本部が丸亀市に設立されることになりました。

私は、オランダ神父様のオートバイの後ろに乗って何度も県庁に向かい、色々な手続きのお手伝いをしました。無事に、司祭館と幼稚園が新築されました。

の孫達や9人の曾孫達も授かりました。長く生きていけると、両親を始め、叔父・叔母、従兄弟達、主人、主人の姉夫婦・弟夫婦と、数えてみれば20名近くを見送りました。信仰のお恵みを頂いた家族は25名おります。神様に生かされて米寿を迎えました。感謝で一杯です。

愛媛プロック

道後聖母幼稚園 園舎建替工事中

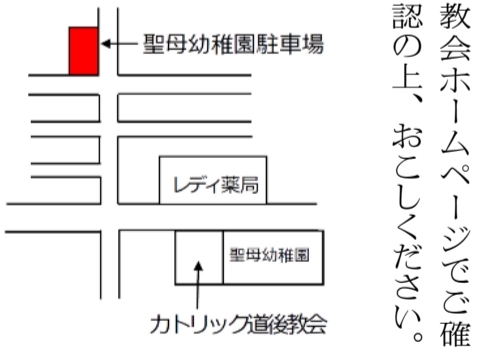
4月から、カトリック道後教会に隣接する道後聖母幼稚園の園舎の建て替え工事が始まりました。新園舎完成後の旧園舎のとり壊しまで含めると、工事が完了するのは2022年7月の予定です。

その間、平日には道後教会の駐車場を工事車両が使用することになっており、今のところ、安全のために平日の教会は閉鎖しております。また、園庭が駐車場として利用できなくなったため、主日のミサのときにはできるだけ教会から徒歩5分(距離230メートル)の幼稚園駐車場をご利用ください。教会駐車場は高齢者や足の不自由な方を優先したいと思っております。よろしく願います。



前川さん(孫・ひ孫さん達に囲まれて)

また、6月から主日のミサ開始時間が11時に変更になりました。川上神父様が松山教会と道後教会の両担当司祭になられたためです。



また、6月から主日のミサ開始時間が11時に変更になりました。川上神父様が松山教会と道後教会の両担当司祭になられたためです。

教会の諸行事に時たま参加している3人の青年から筆者に「ナイスの話が聞きたい」とメールが来り、発表し合った。教会は2回で途切れたが、刷新に向けたその分ち合いは画期的で、まさに歴史的な行事であった。(2011年6月の定例会(教総会)と決議している。高松教区でもことあるごとに司教書などで説き明かされ、生涯養成に視点をお

NICE
ともに喜びをもつて生きよう
大切なこと、若者に伝えたい

ナイス(NICE)と 庄巻は14の提言に基づいた取り組みが注目され、く「ともに喜びをもつて生きる」教会の少子化が叫ばれたという日本司教団教書。て欲しい。だから今こそ、その中軸は①社会ととも 意欲がある若者たちに大に生きる教会②旋・教義 切なことを伝えておきた インターマに、全国16教を中心としたとらえ方か。い。(M)

子どもと女性をまもる委員会

聖職者による性的虐待

相談窓口

電話番号：087-831-6659

相談窓口受付時間
月曜日から金曜日(祝日除く)
午前9時~午後5時

高松教区対応チーム

教区広報から

教区広報委員会では、教区報・インターネットで区内小教区の情報を幅広くお伝えしていきたいので、皆様からの情報提供をお待ちしています。小教区の広報誌・新聞などに掲載された記事も歓迎です。各地区の広報委員を通して又は教区広報に直接、ニュースをお寄せください。